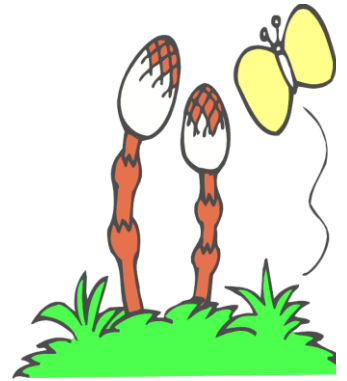


教員の病休代替の確保に全力を！



【平野】心の病による長期病休者は何人か。

代替教員の配置はできたのか。

(答弁) 1ヶ月以上の病休者は、この5年間(H21~25)で68人。今年度では10人で、うち3人は配置できませんでした。また5人は、配置までの期間は70~189日かかりました。理由は、代替教員の確保が困難だからです。

【平野】毎年10人前後、心の病で長期休暇となる。これはなぜか。

(答弁) 個人的な悩みや職場の人間関係のつまずき、保護者の過度な要望や期待、生徒指導上の諸問題などの学級経営の困難、事務量の増大による超過勤務や業務の多忙化などのストレスによるなど、複合的な原因があると思われます。

【平野】代替教員の配置ができない原因は何か。

(答弁) 国は病休期間3ヶ月以上でないと代替の配置を認めません。大分県は1ヶ月以上で配置していますが、県が用意した講師リストはすぐなくなり、特に年度途中の場合は足りず、人探しに苦慮しています。

また、定員内の臨時教員は23歳で19万9,700円、諸手当も正規と同じなのに対し、病休代替教員は日額制7,720円、交通費のみ支給、雇用期間も未定などと、待遇が悪いのも一因かと思えます。

【平野】現場の教員は疲れ果てている。正規教員と非正規の人数はどうか。

(答弁) 平成25年度、正規教諭390人、臨時講師85人、17.9%は非正規です。

【平野】病休代替はこの数にも入っていない。国庫補助の対象にもならない。国は「必要な人員」と認めていない。

ところが、20年前は1,000人台だった心の病の病休者は、10年前に2,000人台、最近では5,400~5,500人と急増している。つまり「一部の現象」だったが、今では、どこでもありうる現象になっている。国や県に改善を強く求めるべきだ。

(答弁) 強く求めていきます。

学校では「心の病」で長期の病休暇をとる教員の代替教員の確保ができず、苦労している現状があります。
平野市議は3月議会で次のように質問しました。

国連が、再三にわたって「勧告」 日本の異常な教育

(2010年の勧告)

「過度な競争への不満が増加し続けていることに留意し、懸念する」「高度に競争主義的な学校環境が、就学年齢にある子どもたちの間のいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺に寄与しうることを懸念する」

(情緒的幸福度が低い)

15歳で「孤独」「寂しい」が29.8%、OECD（経済開発協力機構）平均で7.4%。国連はこの理由について、日本の子どもたちにとって「教師や親との人間的関係が荒廃している」という問題を第一にあげている。



【平野】（上記の勧告を指摘し）**教員の心の病の急増は、日本の教育、学校が陥っている欠陥に起因している。子どもの発達障害の現状はどうか。**

（答弁）別府市の子どもの発達障害の現状は、LD（学習障害）が小学校227人（4.26%）中学校88人（3.3%）、ADHD（注意欠陥多動性障害）が、小学校181人（3.40%）中学校36人（1.35%）、合計532名（全小中学生の6.59%）です。（平成24年度）

【平野】**いじめの件数はどうか。**

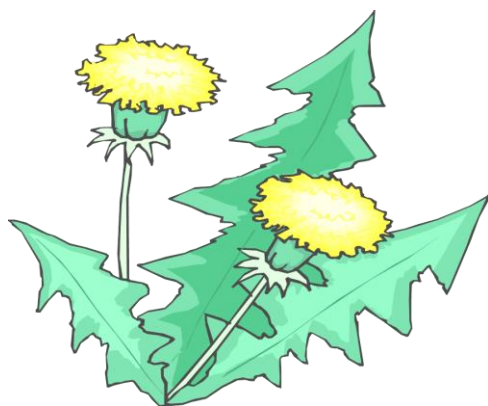
（答弁）年間件数は、小学校300～500件、中学校100～150件です。

【平野】**不登校（30日以上欠席）はどうか。**

（答弁）毎年、小学校10～20人、中学校70～100人です。平成24年度調査では、小学校11人、中学校82人です。

【平野】これらは「子どもの悲鳴」だ。いじめは、各学校が年間20～30件に対応しなければならない。中学校の不登校70～100人は異常事態だ。現場の教員は、これらのひとつひとつに誠実に対応しなければならず、疲れ果てるのは当然だ。

教育委員会と別府市には、実効ある対策を強く求めたい。



平野市議は、このほかにも、
ゴミ減量問題、温暖化対策などについても質問しました。